

## 平成 17 年度「医療連携と退院後受療に係る調査」

### I. 調査の概要

1. 調査の目的
2. 班構成
3. 調査方法
4. 調査票（省略）
  - (1) 一次調査：「DPC 病院、DPC 試行的適用病院、DPC 調査協力病院に対する調査」
  - (2) 二次調査：「DPC 病院等との連携先医療機関・施設の職員に対する調査」

### II. 調査票発送と回収の詳細

1. 一次調査対象医療機関の選択
2. 一次調査票の回収
3. 二次調査対象医療機関の選択
4. 二次調査票の回収

### III. 「DPC 病院、DPC 試行的適用病院、DPC 調査協力病院に対する調査」の集計結果

### IV. 「DPC 病院等との連携先医療機関・施設の職員に対する調査」の集計結果

### V. まとめ

## I. 調査の概要

### 1. 調査の目的

平成 15 年度に施行された DPC に基づく包括評価制度は、特定機能病院等 82 医療機関から始まり、平成 16 年度より DPC 試行的適用病院として拡大されてきた。また、この拡大と期を一にして、包括評価制度は適用しないが EF ファイル等 DPC 病院等と同等の診療情報を厚生労働省に提供し、制度の検証等に協力するべく、DPC 調査協力病院が募集されている。

診療報酬調査専門組織のひとつである DPC 評価分科会では、これら病院からの診療情報や各種特別調査の結果について検討し、DPC の導入後、入院日数（平均在院日数）の短縮が進んでいること、DPC 病院が DPC 試行的適用病院や DPC 調査協力病院に比して複雑な病態に対する診療をより多く行っていること、患者満足度は良く、相互に差異が無いことなどを確認している。

この調査「医療連携と退院後受療に係る調査」は、平成 16 年度より DPC 評価分科会が「DPC 導入の影響評価のための調査研究」の一環として調査班を編成して行うものである。また、この調査の目的とするところは、DPC に基づく包括評価制度導入により各病院の入院日数の短縮が進む中で、医療連携に問題が生じていないか、地域医療への混乱が生じていないかなど、「医療の質」にかかわることごとを医療機関への調査票を通して検討することである。

今回の調査では、昨年度の調査結果をふまえ、調査対象を DPC 病院に加えて DPC 試行的適用病院および DPC 調査協力病院に拡大し、それぞれ医療機関の診療科の医療連携にかかわる診療形態を調査する（これを「一次調査」という。）と共に、各医療機関診療科からの情報に基づき、医療連携先の医療機関・施設の職員に対し、医療連携に関する意識および一次調査の医療機関に対する評価（これを「二次調査」という。）を、調査票をもちいて調査した。これらの結果について、DPC 病院、DPC 試行的適用病院、DPC 調査協力病院を比較検討した。

### 2. 班構成

診療報酬調査専門組織 DPC 評価分科会「医療連携と退院後受療に係る調査」班

酒巻哲夫	（群馬大学医療情報部教授）	-----	調査事務局
池上直己	（慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教授）		
熊本一朗	（鹿児島大学医療情報管理学教授）		
三上裕司	（総合病院東香里病院院長）		
山本義一	（JFE 健康保険組合川鉄千葉病院院長）		

### 3. 調査方法

診療報酬調査専門組織 DPC 評価分科会での議論をもとに、「医療連携と退院後受療に係る調査」班を組織し、調査項目、調査方法などを検討し、調査を行った。

調査は一次調査と二次調査からなる。

一次調査は、DPC 病院、DPC 試行的適用病院および DPC 調査協力病院のそれぞれ約 25 医療機関を全国に平均に分布するよう、また設立母体や規模の偏在を避けてノミネートして調査協力を要請した。平成 17 年 10 月 19 日に慈恵医科大学において調査についての説明会を開催し、この後に調査を希望した医療機関を含めて、98 施設が一次調査の対象となった。なお、DPC 調査協力病院については、16 年度から調査協力病院となっていることを原則にした。

二次調査は、一次調査で各病院の診療科が「退院患者様を紹介するにあたって緊密な関係にある上位の医療機関・施設」として第 3 位までを報告したもののうち、入院として年間 5 名以上の紹介をしたとする連携先医療機関・施設に対して調査票を送付して行った。

一次および二次調査票は次項に示すとおりである。平成 16 年度に行った同名の調査の質問項目をふまえ、更に詳細な検討が可能なよう項目数を増やし、一方で選択肢を用いるなど回答者の負担の軽減を計ることとした。主要な調査事項は下記のごとき内容である。

(一次調査票の基本的な質問事項)

- ① 診療科の診療内容と DPC 導入後の変化：入院患者の MDC 疾患分類、患者の病態の複雑性、癌・悪性腫瘍患者の比率、リハビリテーションを必要とする患者の比率
- ② 診療科の患者受け入れ状況と DPC 導入後の変化：平均在院日数、稼動病床数、年間入院患者数、患者待機状況、他医療機関からの紹介実績
- ③ 他医療機関への紹介（第 2 次調査の基礎データ）：連携の密な医療機関リスト、紹介の理由、連携先医療機関へのニーズ

(二次調査票の基本的な質問事項)

- ① 医療機関の機能：病院/診療所/施設、診療科目数、急性期あるいは慢性期リハビリテーション機能、在宅支援
- ② DPC 病院等への評価：職員の目から見た治療への評価、職員の仕事量への負担感、患者の声を聞いての間接的評価、今後の受け入れの可否
- ③ DPC 病院等への要望（ニーズ）

なお、調査は概ね以下のスケジュールで行われた。

平成 17 年 10 月 19 日	調査説明会開催
平成 17 年 10 月末	一次調査票の発送開始
平成 17 年 12 月～	一次調査票回収
平成 18 年 1 月～	二次調査票の発送開始
平成 18 年 2 月～	二次調査票の回収

### 4. 調査票（省略）

- (1) 一次調査：「DPC 病院、DPC 試行的適用病院、DPC 調査協力病院に対する調査」
- (2) 二次調査：「DPC 病院等との連携先医療機関・施設の職員に対する調査」

## II. 調査票発送と回収の詳細

### 1. 一次調査対象医療機関の選択

DPC 病院、DPC 試行的適用病院、DPC 調査協力病院について、昨年度に調査を行った病院を除外し、地域性、設立母体を考慮して、それぞれ 24 病院、27 病院、47 病院に調査票を送付した。

### 2. 一次調査票の回収

【DPC 病院】 21 病院から一次調査に対する調査票を回収できた。病院名は以下のとおりであり、回収率は 87.5%であった。

岩手医科大学附属病院  
北海道大学病院  
日本大学医学部附属板橋病院  
筑波大学附属病院  
防衛医科大学校病院  
埼玉医科大学病院  
名古屋大学医学部附属病院  
愛知医科大学病院  
大阪大学医学部附属病院  
近畿大学医学部附属病院  
京都大学医学部附属病院  
岡山大学医学部・歯学部附属病院  
山口大学医学部附属病院  
高知大学医学部附属病院  
九州大学病院  
長崎大学医学部・歯学部附属病院  
鹿児島大学病院  
福井大学医学部附属病院  
金沢医科大学病院  
富山医科薬科大学附属病院  
山形大学医学部附属病院

【DPC 試行的適用病院】 25 病院から一次調査に対する調査票を回収できた。病院名は以下のとおりであり、回収率は 92.6%であった。

医療法人 溪仁会 手稻溪仁会病院  
医療法人 禎心会病院  
新日鐵室蘭総合病院  
医療法人 社団 カス アライアンス 日鋼記念病院  
社会保険中央総合病院  
医療法人 鉄蕉会 亀田総合病院  
埼玉協同病院

社会保険群馬中央総合病院  
社会保険山梨病院  
健康保険組合連合会 大阪中央病院  
松下電器健康保険組合 松下記念病院  
独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター  
洛和会音羽病院  
財団法人倉敷中央病院  
マツダ株式会社 マツダ病院  
独立行政法人国立病院機構九州医療センター  
独立行政法人国立病院機構嬉野医療センター  
佐賀社会保険病院  
健康保険天草中央総合病院  
健康保険人吉総合病院  
金沢社会保険病院  
南砺市民病院  
社会保険二本松病院  
財団法人竹田総合病院  
独立行政法人国立病院機構仙台医療センター

【DPC 調査協力病院】 45 病院から一次調査に対する調査票を回収できた。病院名は以下のとおりであり、回収率は 95.7%であった。

岩手県立中央病院  
岩手医科大学附属循環器医療センター  
医療法人医仁会 中村記念病院  
財団法人聖路加国際病院  
医療法人財団 石心会 川崎幸病院  
医療法人社団 愛心会 湘南鎌倉総合病院  
国家公務員共済組合連合会 平塚共済病院  
秦野赤十字病院  
J A 神奈川県厚生連 伊勢原協同病院  
J F E 健康保険組合川鉄千葉病院  
医療法人社団木下会 千葉西総合病院  
医療法人社団圭春会 小張総合病院  
株式会社日立製作所 水戸総合病院  
済生会宇都宮病院  
医療法人財団 石心会 狭山病院  
上尾中央総合病院  
長野県厚生農業協同組合連合会 佐久総合病院  
独立行政法人国立病院機構長野病院  
三島社会保険病院  
みなと医療生活協同組合 協立総合病院  
医療法人 宏潤会 大同病院  
独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター  
トヨタ記念病院  
四日市社会保険病院

大津赤十字病院  
 大阪府立成人病センター  
 財団法人 大阪警察協会 大阪警察病院  
 箕面市立病院  
 恩賜財団社会福祉法人 大阪府済生会 富田林病院  
 神戸赤十字病院  
 医療法人財団 姫路聖マリア病院  
 赤穂市民病院  
 特定医療法人 鴻仁会 岡山中央病院  
 岡山赤十字病院  
 広島県立広島病院  
 徳島赤十字病院  
 公立八女総合病院  
 医療法人祐愛会 織田病院  
 日本赤十字社長崎原爆病院  
 医療法人 白十字会 佐世保中央病院  
 国保水俣市立総合医療センター  
 川内市医師会立市民病院  
 医療法人友愛会 豊見城中央病院  
 福井県済生会病院  
 調査協力病院A

### 3. 二次調査対象医療機関の選択

一次調査の各診療科より得られた連携先医療機関・施設（以下「機関」という。）のうち、年間5例以上の入院患者を紹介していると報告された機関に二次調査票を送付した。近隣に2つ以上の一次調査対象となった医療機関があるために、あるいは同一の医療機関から2つ以上の診療科が重複して同じ連携先機関をあげたために、実際に発送した医療機関・施設数は重複しているが、1168（件）である。

### 4. 二次調査票の回収

1168件の二次調査票送付に対し、556件を回収できた。回収率は47.6%である。なお、回答は、各機関の職員のうち、紹介元となった医療機関の診療科からの患者の診療に関与した職員3から5名が行うよう依頼しており、得た調査票の数は2136件である。一機関あたりの回答した職員数は平均3.8人であった。

DPC病院、DPC 試行的適用病院、DPC 調査協力病院のそれぞれの一次調査にもとづく回収の状況は下記の表のとおりである。それぞれの回収率は49.8%、53.4%、42.5%であり、これら3種の病院の回収率に大きな差異は無かった。

	総数	DPC病院からの報告に基づくもの	DPC 試行病院からの報告に基づくもの	DPC 協力病院からの報告に基づくもの
発送した医療機関・施設数(重複あり)	1168	422	264	482
回収した医療機関・施設数(重複あり)	556	210	141	205
回収した調査票数(回答した職員数)	2136	817	562	757

Ⅲ. 「DPC 病院、DPC 試行的適用病院、DPC 調査協力病院に対する調査」の集計結果

分かりやすくする為に、各質問項目を挙げて集計結果を示す。

質問 1 貴診療科の属する系についてお答え下さい。

<input type="checkbox"/> 1. 内科系 <input type="checkbox"/> 3. 内科系と外科系の混成 <input type="checkbox"/> 2. 外科系 <input type="checkbox"/> 4. その他
---

質問 1 の集計結果

調査した診療科の総数	1. 内科系	2. 外科系	3. 内科系と外科系の混成	4. その他	計
DPC 病院 (21 施設)	185	217	31	17	450
DPC 試行的適用病院(25 施設)	117	151	20	19	307
DPC 調査協力病院(45 施設)	199	311	43	22	575

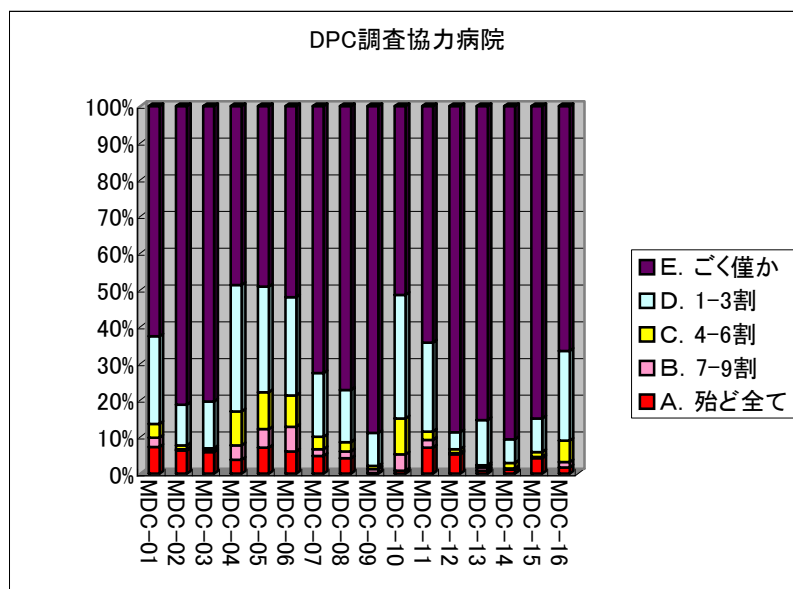
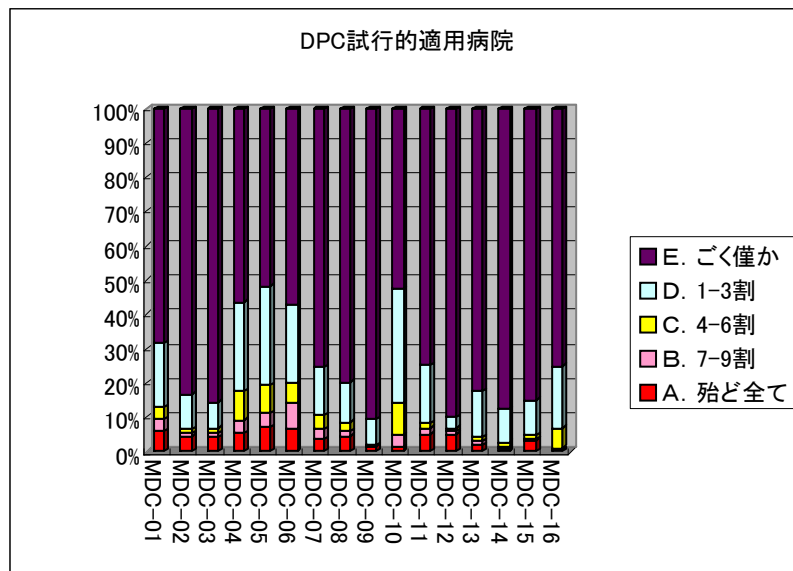
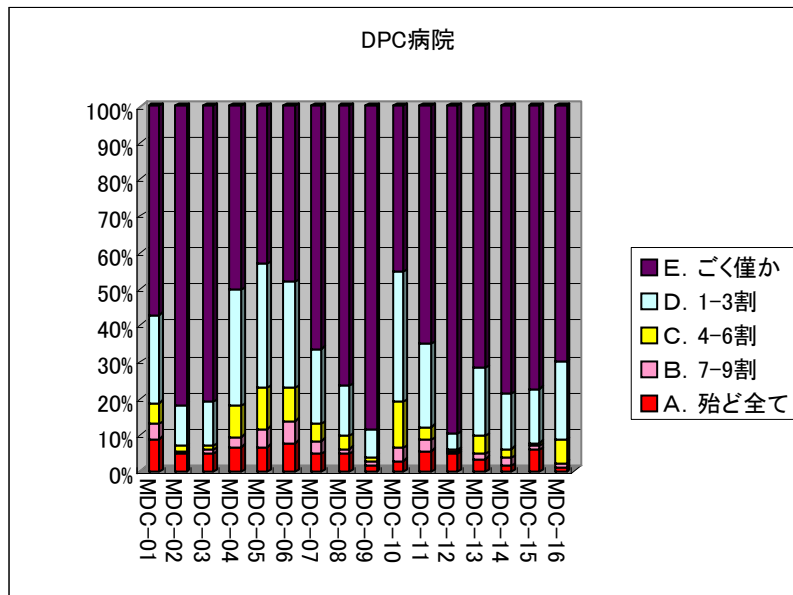
質問 2 貴診療科に入院する患者様の病態について疾患構成割合を以下に示す A B C D E の何れかを用いてお答え下さい。なお、この割合は D P C 分類に用いた疾患のみならず、主要な合併症、併存症も含めてご記入下さい。

<p>ABCDE について</p> <p>A : 全て、もしくは殆ど全ての患者様が該当する</p> <p>B : 大多数の患者様が該当する (目安として 7 ~ 9 割程度)</p> <p>C : 半数程度の患者様が該当する (目安として 4 ~ 6 割程度)</p> <p>D : 少数の患者様が該当する (目安として 1 ~ 3 割程度)</p> <p>E : ごく僅かの患者様が該当する、もしくは該当する患者様がいない</p>
--

★ 記入要領：糖尿病性網膜症などの手術を相当数行っており、高血圧症を併存する患者様も少数であるが常に入院しているという眼科であれば、02 眼科系疾患 (A)、05 循環器系疾患 (D)、10 内分泌・栄養・代謝に関する疾患 (B) もしくは (C)、他の分類は (E) などとする。

MDC 分類	ABCDE で示す割合
01 神経系疾患-----	( )
02 眼科系疾患-----	( )
03 耳鼻咽喉科系疾患-----	( )
04 呼吸器疾患-----	( )
05 循環器系疾患-----	( )
06 消化器系、肝臓・胆道・膵臓疾患-----	( )
07 筋骨格系疾患-----	( )
08 皮膚・皮下組織の疾患-----	( )
09 乳房の疾患-----	( )
10 内分泌・栄養・代謝に関する疾患-----	( )
11 腎・尿路系疾患および男性生殖器系疾患-----	( )
12 女性生殖器系疾患および産褥期疾患・異常妊娠分娩-----	( )
13 血液・造血器・免疫臓器の疾患-----	( )
14 新生児疾患、先天性奇形-----	( )
15 小児疾患-----	( )
16 外傷・熱傷・中毒、異物、その他の疾患-----	( )

質問 2 : 各 MDC について



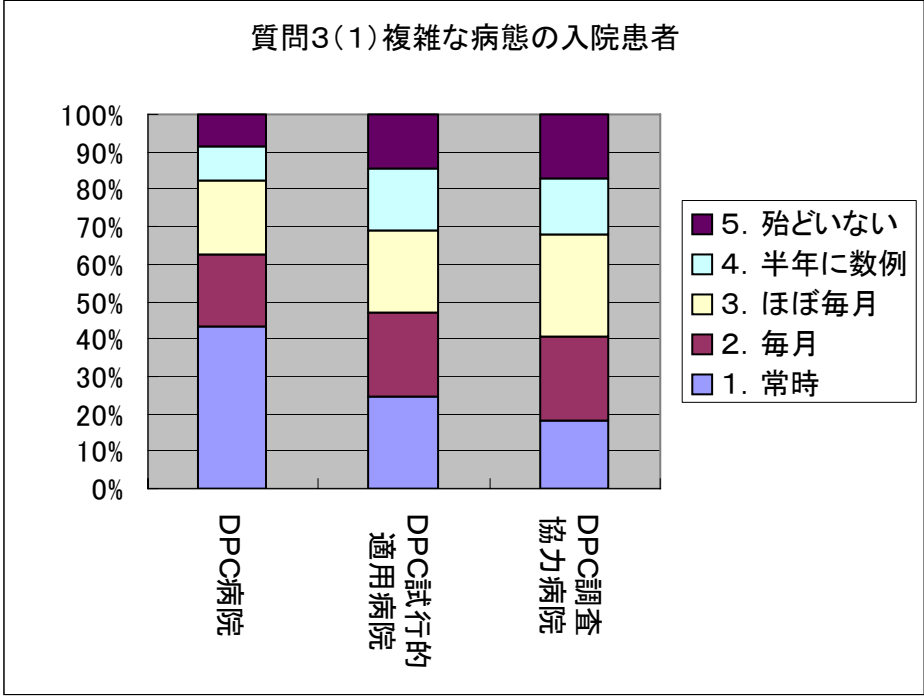


質問3 (1) 貴診療科に入院する患者様のうち、複雑な病態の患者様の頻度についてお尋ねします。  
 ここで複雑な病態を有する患者様とは、①複数のMDC疾患分類にまたがる重い合併症や併存症などを有するため、頻回に他診療科の医師もしくは他分野の専門医のコンサルテーションを必要とする患者様、②異なる専門的な診断技術や治療技術を同時期に用いるため、他診療科の医師もしくは他分野の専門医の協力を頻回に必要とする患者様、③病態の急激な変化などで院内の他診療科への転科を必要とする患者様、④ICU、HCU、NICUなどで集中管理を必要とする患者様、⑤前記の理由で他の病院に緊急に転院を必要とする患者様などを指します。

この①②③④⑤の何れかに該当する患者様の頻度をお答え下さい。

なお、①②で頻回とは、術前・術後のルーチン化した他科受診、麻酔科受診、リハビリテーションに係わる受診を除外したうえで、数回以上の診療協力が入院中のある時期に集中して、あるいは入院全般を通じて生ずる場合です。また、③④については、手術と関連するルーチン化した院内診療連携の場合を除外してください。

- 1. 常時、数例以上の複雑な病態を有する患者様が入院している
- 2. 毎月、数例の複雑な病態を有する患者様が入院して、途絶えることが無い
- 3. ほぼ毎月、複雑な病態を有する患者様が入院するが、途絶えることもある
- 4. 半年に数例程度の複雑な病態を有する患者様が入院する
- 5. 複雑な病態を有する患者様は殆どいないか、年間に数例程度にとどまる



$\chi$  二乗 : p=0.000

質問3 (2) 貴診療科において、質問3 (1) に該当する「複雑な病態を有する」入院患者様は、この3、4年の間に増加する傾向にありますか、それとも減少する傾向にありますか。

- 複雑な病態を有する入院患者様は
- 1. 著しく増加する傾向にある
  - 2. 増加する傾向にある
  - 3. 変わらない
  - 4. 減少する傾向にある
  - 5. 著しく減少する傾向にある

質問3 (2) 複雑な病態を有する入院患者様数の増加 (診療科数)

	1. 著しく増加	2. 増加	3. 変わらない	4. 減少	5. 著しく減少	6. 無回答
DPC病院	35	232	172	5	2	4
DPC試行的適用病院	8	120	169	4	0	6
DPC調査協力病院	24	259	282	8	0	2

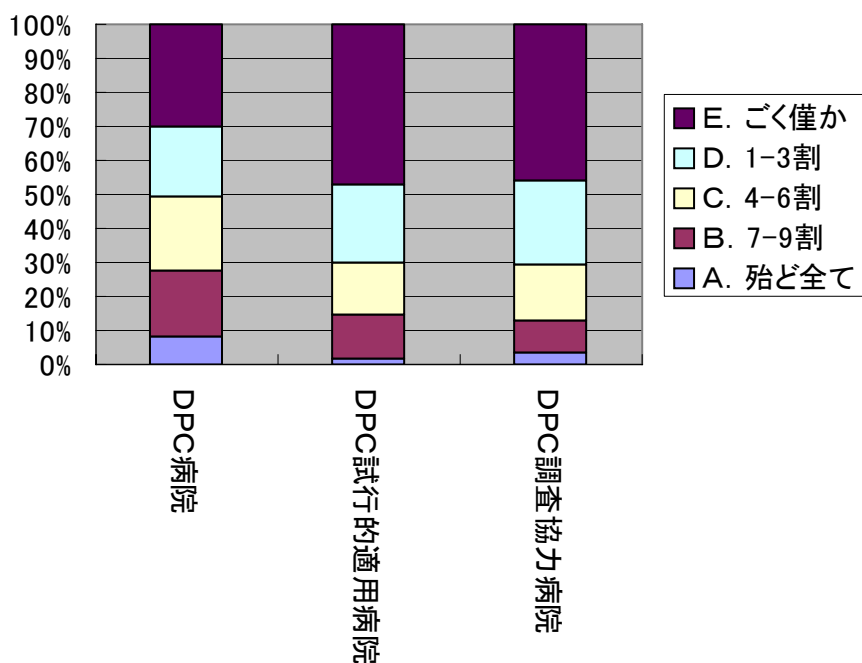
$\chi$  二乗 :  $p=0.000$

質問4 (1) 貴診療科において、癌・悪性腫瘍 (血液系をも含む) の診断・治療を目的として入院する患者様の割合を、以下に示すABCDEの何れかでお答え下さい。

- A : 全て、もしくは殆ど全ての患者様が該当する
- B : 大多数の患者様が該当する (目安として7~9割程度)
- C : 半数程度の患者様が該当する (目安として4~6割程度)
- D : 少数の患者様が該当する (目安として1~3割程度)
- E : ごく僅かの患者様が該当する、もしくは該当する患者様がない

入院患者様のうち、癌・悪性腫瘍の割合は ( )

質問4(1) 癌・悪性腫瘍の入院患者 (診療科数の%)



$\chi$  二乗 :  $p=0.000$

質問4(2) 貴診療科において、質問4(1)に該当する「癌・悪性腫瘍」の患者様は、この3、4年の間に増加する傾向にありますか、それとも減少する傾向にありますか。

癌・悪性腫瘍の患者様は

- 1. 著しく増加する傾向にある
- 2. 増加する傾向にある
- 3. 変わらない
- 4. 減少する傾向にある
- 5. 著しく減少する傾向にある

質問4(2) 癌患者の数の変化(診療科数)

	1. 著しく増加	2. 増加	3. 変わらない	4. 減少	5. 著しく減少	6. 無回答
DPC病院	26	180	227	10	2	5
DPC試行的適用病院	4	84	211	3	0	5
DPC調査協力病院	11	209	339	11	1	4

$\chi$ 二乗：p=0.000

質問5(1) 貴診療科において、入院中にリハビリテーションを受ける、あるいは退院後にそれを必要とする患者様の割合を、以下に示すABCDEの何れかでお答え下さい。

- A：全て、もしくは殆ど全ての患者様が該当する
- B：大多数の患者様が該当する(目安として7~9割程度)
- C：半数程度の患者様が該当する(目安として4~6割程度)
- D：少数の患者様が該当する(目安として1~3割程度)
- E：ごく僅かの患者様が該当する、もしくは該当する患者様がない

リハビリテーションを受ける、あるいは必要とする患者様の割合は( )

質問5(1) リハビリテーション患者の割合(診療科数)

	A. 殆ど全て	B. 7-9割	C. 4-6割	D. 1-3割	E. ごく僅か	F. 無回答
DPC病院	16	28	63	195	148	0
DPC試行的適用病院	20	28	41	110	106	2
DPC調査協力病院	32	54	83	183	222	1

質問5(2) 貴診療科において、質問5(1)に該当する「入院中にリハビリテーションを受ける、あるいは退院後にそれを必要とする」患者様は、この3、4年の間に増加する傾向にありますか、それとも減少する傾向にありますか。また、そのような患者様への方針はどのようなものですか。

リハビリテーションを受ける、あるいは必要とする患者様は  <input type="checkbox"/> 1. 著しく増加する傾向にある <input type="checkbox"/> 2. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> 3. 変わらない <input type="checkbox"/> 4. 減少する傾向にある <input type="checkbox"/> 5. 著しく減少する傾向にある	患者様のリハビリテーションは  <input type="checkbox"/> 1. 自院で十分に行う <input type="checkbox"/> 2. 早期のみとし、後は他院に紹介する <input type="checkbox"/> 3. 自院では行わず、専門機関に任せる <input type="checkbox"/> 4. 特に方針は無い <input type="checkbox"/> 5. 必要となる患者様は殆どいない
--	---

質問5(2左) リハビリテーション患者の数の変化(診療科数)

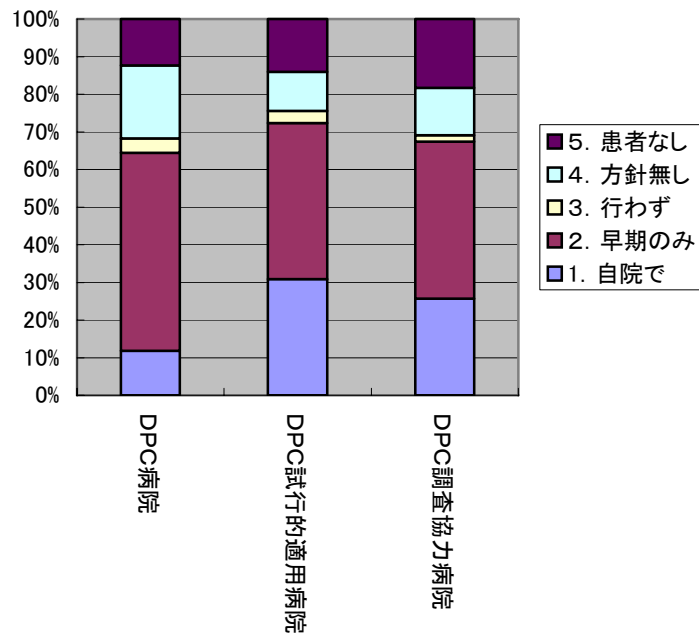
	1. 著しく増加	2. 増加	3. 変わらない	4. 減少	5. 著しく減少	6. 無回答
DPC病院	8	148	282	6	2	4
DPC試行的適用病院	5	122	163	7	0	10
DPC調査協力病院	12	187	355	14	1	6

質問5(2右) リハビリテーション患者の治療方針(診療科数)

	1. 自院で	2. 早期のみ	3. 行わず	4. 方針無し	5. 患者なし	6. 無回答
DPC病院	52	230	17	85	54	12
DPC試行的適用病院	90	125	9	32	39	12
DPC調査協力病院	145	228	11	74	106	11

$\chi^2$  二乗:  $p=0.000$

質問5(2)リハビリテーション患者の治療方針(診療科数)



質問6 貴診療科の平均在院日数、平均病床稼働数、年間入院実数（再入院を含む）についてお答え下さい。なお、共通病床やICU、CCU、HCU、NICU、亜急性期病床など貴診療科が利用する各種病床区分も対象に含めてお答え下さい。

- (1) 平成16年度の平均在院日数は ( ) 日  
 (2) 平成16年度の平均稼働病床数は (1日あたり ) 床  
 (3) 平成16年度の年間入院の患者数は ( ) 人

結果省略

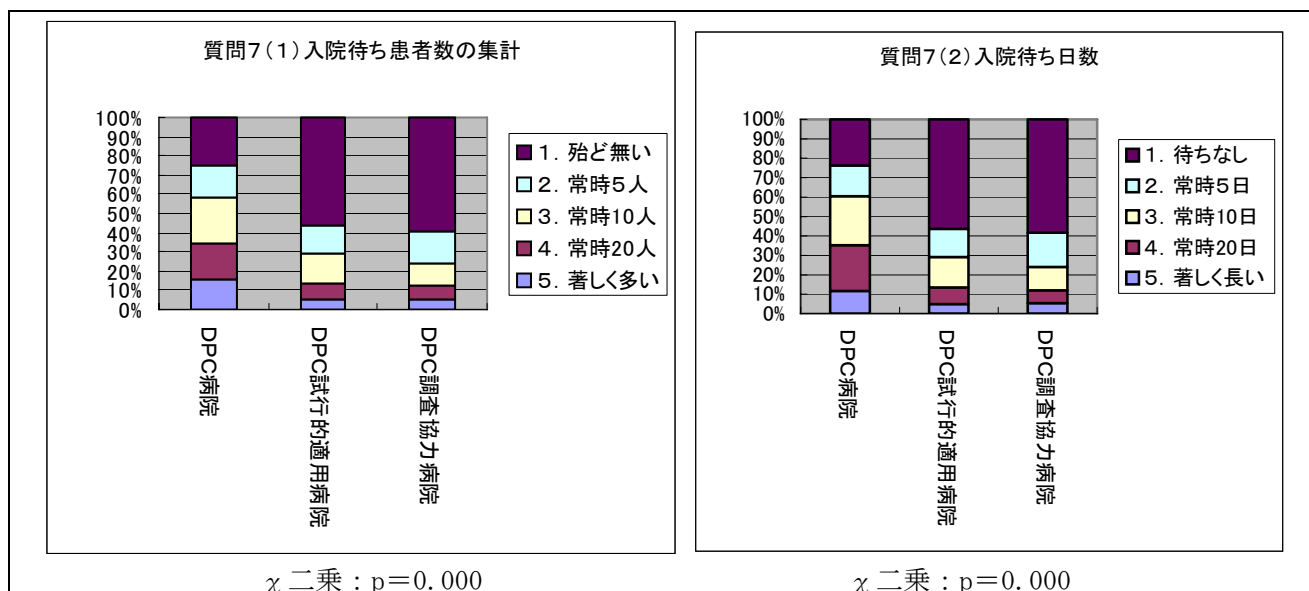
質問7(1) 貴診療科において、入院待ちをする患者様（いわゆるウェイトिंगリストに載る患者様）の数は平均して何人ですか。

1. ほとんど入院待ちの患者様はいない  
 2. 常時5人前後の入院待ちの患者様がいる  
 3. 常時10人前後の入院待ちの患者様がいる  
 4. 常時20人前後の入院待ちの患者様がいる  
 5. 著しく多くの患者様（約 人）が入院を待っている

質問7(2) 貴診療科において、ウェイトングリストに載る患者様の平均した入院待ち日数はどのくらいの期間ですか。

入院までの期間は、一方では患者様の社会的事情などが勘案され、他方では患者様の重症度や緊急の度合いに応じて高度に判断されるものですが、ここでは貴診療科に入院される患者様の平均像を勘案してお答え下さい。

1. 入院待ちはなく、患者様の都合に応じて何時でも可能  
 2. 常時5日前後の入院待ち期間が生ずる  
 3. 常時10日前後の入院待ち期間が生ずる  
 4. 常時20日前後の入院待ち期間が生ずる  
 5. 著しく長期（約 日）の入院待ち期間が生ずる



質問7(3) 貴診療科において、ウェイティングリストに載る患者様の平均した入院待ち日数は、この3、4年の間に長くなる傾向にありますか、それとも短くなる傾向にありますか。

ウェイティングリストに載る患者様の平均した入院待ち日数は

1. 著しく長くなる傾向にある

2. 長くなる傾向にある

3. 変わらない

4. 短くなる傾向にある

5. 著しく短くなる傾向にある

質問7(3) 入院待ち日数の変化(診療科数)

	1. 著しく長くなる	2. 長くなる	3. 変わらない	4. 短くなる	5. 著しく短くなる	6. 無回答
DPC病院	6	85	266	82	5	6
DPC試行的適用病院	1	34	217	37	6	12
DPC調査協力病院	4	50	433	76	4	8

χ二乗：p=0.000

質問8(1) 医療連携として病棟への受け入れの状況についてお尋ねします。他医療機関から紹介されて入院する患者様の割合は、貴診療科の全入院患者のどのくらいに該当するか、ABCDEのどれかでお答え下さい。一時的に自院の外来を經由して入院する患者様も含めてください。

A：全て、もしくは殆ど全ての患者様が該当する

B：大多数の患者様が該当する(目安として7～9割程度)

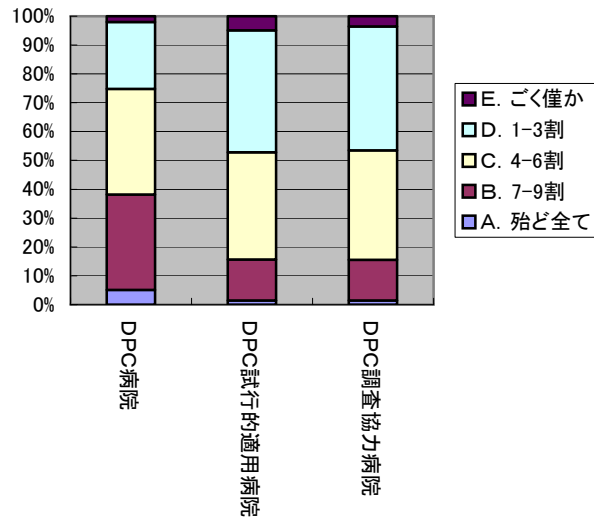
C：半数程度の患者様が該当する(目安として4～6割程度)

D：少数の患者様が該当する(目安として1～3割程度)

E：ごく僅かの患者様が該当する、もしくは該当する患者様がない

他医療機関から紹介されて入院する患者様の割合は ( )

質問8(1)医療連携の受け入れ患者数



$\chi$  二乗 : p=0.000

質問8(2) 貴診療科において、質問8(1)にしめす「他医療機関から紹介をされて入院する患者様」は増加する傾向にありますか、それとも減少する傾向にありますか。

- 他医療機関から紹介をされて入院する患者様は
- 1. 著しく増加する傾向にある
  - 2. 増加する傾向にある
  - 3. 変わらない
  - 4. 減少する傾向にある
  - 5. 著しく減少する傾向にある

結果省略

質問9(1) 医療連携として病棟から他への紹介の状況についてお尋ねします。貴診療科から、他医療機関の入院および外来に紹介する患者様の割合は全入院患者のどのくらいに該当するか、ABCDEの何れかでお答え下さい。

- A : 全て、もしくは殆ど全ての患者様が該当する
- B : 大多数の患者様が該当する (目安として7~9割程度)
- C : 半数程度の患者様が該当する (目安として4~6割程度)
- D : 少数の患者様が該当する (目安として1~3割程度)
- E : ごく僅かの患者様が該当する、もしくは該当する患者様がない

他医療機関に入院として紹介する患者様の割合は ( )  
 他医療機関に外来として紹介する患者様の割合は ( )

質問9(1入院)他医療機関の入院への紹介患者数の集計(診療科数)

	A. 殆ど全て	B. 7-9割	C. 4-6割	D. 1-3割	E. ごく僅か	F. 無回答
DPC病院	1	12	26	187	223	1

D P C 試行的適用病院	0	5	13	98	189	2
D P C 調査協力病院	1	6	46	224	298	0

質問 9 (1 外来) 結果省略

質問 9 (2) 貴診療科において、質問 9 (1) にしめす「他医療機関の入院および外来に紹介する患者様」は増加する傾向にありますか、それとも減少する傾向にありますか。

他医療機関に <u>入院</u> として紹介する患者様の数は <input type="checkbox"/> 1. 著しく増加する傾向にある <input type="checkbox"/> 2. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> 3. 変わらない <input type="checkbox"/> 4. 減少する傾向にある <input type="checkbox"/> 5. 著しく減少する傾向にある
他医療機関に <u>外来</u> として紹介する患者様の数は <input type="checkbox"/> 1. 著しく増加する傾向にある <input type="checkbox"/> 2. 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> 3. 変わらない <input type="checkbox"/> 4. 減少する傾向にある <input type="checkbox"/> 5. 著しく減少する傾向にある

質問 9 (2 入院) 他医療機関に入院として紹介する患者数の変化 (診療科数)

	1. 著しく増加	2. 増加	3. 変わらない	4. 減少	5. 著しく減少	6. 無回答
D P C 病院	1	109	330	8	1	1
D P C 試行的適用病院	1	82	213	6	2	3
D P C 調査協力病院	0	148	407	17	3	0

質問 9 (2 外来) 結果省略

質問 10 下記の表に、貴診療科が退院患者様を紹介するにあたって緊密な関係にある上位の医療機関・施設 (以下「機関」という。) について、その名称と住所を正確にご記入ください。また、紹介数や紹介理由などの設問にお答えください。なお、順位は入院・入所についての紹介数の実績 (平成 16 年度) を優先して付けていただきますようお願いいたします。

機関の名称 <正確に>	1 位 (入院・入所の紹介実績を優先してつけた順位)
住所 (電話番号)	(TEL )
(1) 機関の形態	<input type="checkbox"/> ① 病院 <input type="checkbox"/> ② 有床診療所 <input type="checkbox"/> ③ 無床診療所 <input type="checkbox"/> ④ 介護・療養型医療施設 <input type="checkbox"/> ⑤ 福祉施設 <input type="checkbox"/> ⑥ その他
(2) 関係	<input type="checkbox"/> ① 系列あるいはグループとして強い関係にある機関 <input type="checkbox"/> ② ①以外で、医療連携に関する何らかの協約等を相互に結んだ機関 <input type="checkbox"/> ③ ①②以外の場合で、当院に勤務していた医師などが在籍する機関 <input type="checkbox"/> ④ その他



(3) 先方の診療科	貴診療科が紹介実績のある先方の主な診療科名 ( ) ( ) ( )	
(4) 平成16年度の この機関への紹 介患者様の人数	1) 入院(入所)への紹介の人数 <input type="checkbox"/> ① 5人未満 <input type="checkbox"/> ② 5人～10人未満 <input type="checkbox"/> ③ 10人～20人未満 <input type="checkbox"/> ④ 20人～50人未満 <input type="checkbox"/> ⑤ 50人以上	2) 外来(通所)への紹介の人数 <input type="checkbox"/> ① 10人未満 <input type="checkbox"/> ② 10人～20人未満 <input type="checkbox"/> ③ 20人～50人未満 <input type="checkbox"/> ④ 50人～100人未満 <input type="checkbox"/> ⑤ 100人以上
(5) この機関への主 な紹介理由  3個まで選択可 1、2個も可	<input type="checkbox"/> ① 当病院では提供困難な検査を 行うため <input type="checkbox"/> ② 当病院では提供困難な治療を 行うため <input type="checkbox"/> ③ 以前その医療機関で行われた 治療を再度受けるため <input type="checkbox"/> ④ 当病院の現在の治療を継続す るため	<input type="checkbox"/> ⑤ 術後回復のため <input type="checkbox"/> ⑥ リハビリテーションのため <input type="checkbox"/> ⑦ 癌の終末期緩和ケアのため <input type="checkbox"/> ⑧ 介護・福祉型の療養のため <input type="checkbox"/> ⑨ 在宅療養に移行するため <input type="checkbox"/> ⑩ 経過観察のため <input type="checkbox"/> ⑪ 紹介もとである <input type="checkbox"/> ⑫ その他
(6) 紹介数の変化	この3、4年の間に、この機関への紹介数は <input type="checkbox"/> ① 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> ② 変わらない <input type="checkbox"/> ③ 減少する傾向にある	

2位、3位についての質問項目も同じであり、省略する。

問10 (1) 紹介先医療機関・施設の種類 (1位～3位をひとまとめとして集計、回答なしは除外)

	DPC 病院	DPC 試行的適用	DPC 調査協力
① 病院	839	469	908
② 有床診療所	35	45	83
③ 無床診療所	69	184	296
④ 介護・療養型医療施設	10	28	50
⑤ 福祉施設	1	0	20
⑥ その他	2	4	11
計	956	730	1368
(参考) 総診療科数×3	450×3=1350	284×3=852	479×3=1437

$\chi$ 二乗: p=0.000

問10 (2) 紹介元診療科と照会先医療機関・施設との関係 (1位～3位をひとまとめとして集計、回答なしは除外)

結果省略

問10 (3) 結果省略

問10 (4) - 1) 紹介先医療機関・施設 「入院・入所」 への年間紹介数 (1位～3位をひとまとめとして集計、回答なしは除外)

	DPC 病院	DPC 試行的適用	DPC 調査協力
--	--------	-----------	----------

① 5人未満	480	354	678
② 5人～10人未満	218	133	259
③ 10人～20人未満	129	66	141
④ 20人～50人未満	55	49	56
⑤ 50人以上	24	7	23
計	906	609	1157

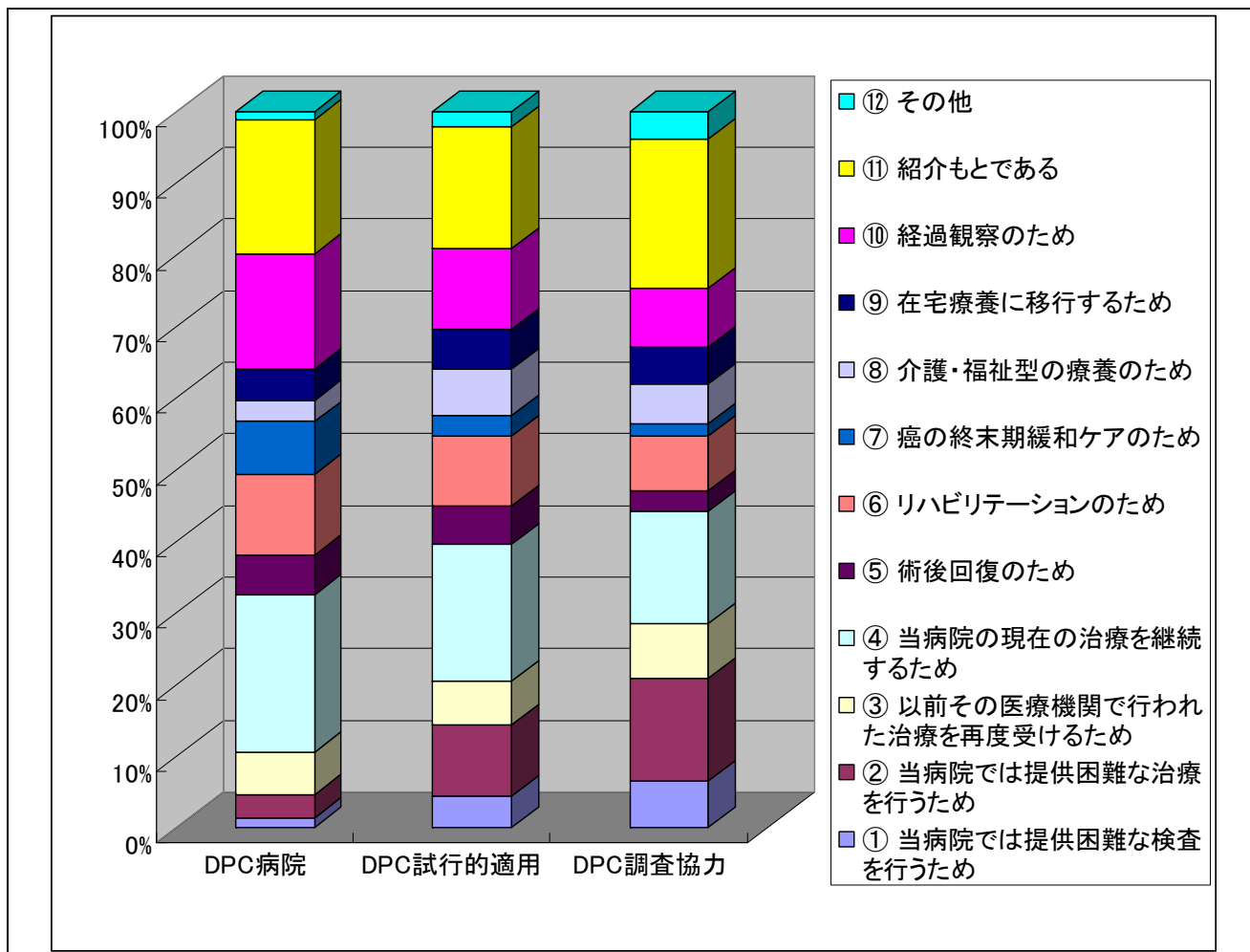
$\chi$  二乗 : p=0.019

問10(4)-2) 紹介先医療機関・施設 「外来・通所」 への年間紹介数(1位～3位をひとまとめとして集計、回答なしは除外)

結果省略

問10(5) この機関への主な紹介理由(1位、2位、3位のそれぞれについて3個まで選択したものの合計、回答なしは除外)

連携先の医療機関・施設への主な紹介理由 ( $\chi$ 二乗 : p=0.000)
--



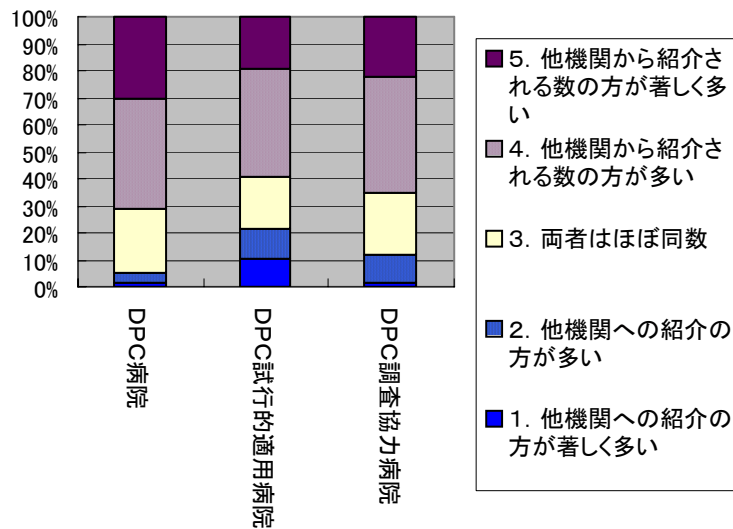
問10 (5) その医療機関・施設への紹介患者の数の変化 (回答なしは除外)

この3、4年の間に、この機関への紹介数は	DPC 病院	DPC 試行的適用	DPC 調査協力
① 増加する傾向にある	403	278	539
② 変わらない	532	417	794
③ 減少する傾向にある	23	11	30
計	958	706	1363

質問11 貴診療科における他医療機関・施設への患者様の紹介数は、他機関からの紹介される患者様の数と比較して多いでしょうか、それとも少ないでしょうか。(病棟を中心とした紹介・逆紹介についてですが、紹介元と逆紹介の先が異なる医療機関である場合も含めてお答えください)

- 1. 他機関への紹介の方が著しく多い
- 2. 他機関への紹介の方が多い
- 3. 両者はほぼ同数
- 4. 他機関から紹介される数の方が多い
- 5. 他機関から紹介される数の方が著しく多い

質問11 医療連携での受け入れ数と他への紹介数の比較



$\chi^2$  二乗:  $p=0.015$

質問12 貴診療科では、この3、4年の間に他医療機関・施設への患者様の紹介の頻度は増えましたか。

- 1. 著しく増えた
- 2. 増えた
- 3. 変わらない
- 4. 減った
- 5. 著しく減った

質問12 他医療機関への紹介数の変化 (診療科数)

	1. 著しく増えた	2. 増えた	3. 変わらない	4. 減った	5. 著しく減った	6. 無回答
DPC病院	17	189	228	6	2	8
DPC試行的適用病院	12	160	125	1	0	9
DPC調査協力病院	19	290	247	13	1	5

$\chi^2$  二乗:  $p=0.015$

質問13 貴診療科では、退院する患者様を紹介するために連携密度の高い医療機関・施設を新たに増やす必要があると考えていますか。

(1) 連携する医療機関・施設を

1. 増やす       2. 増やすことも減らすこともない       3. 減らす

(2) 「1. 増やす」とお答えいただいた診療科にお尋ねします。

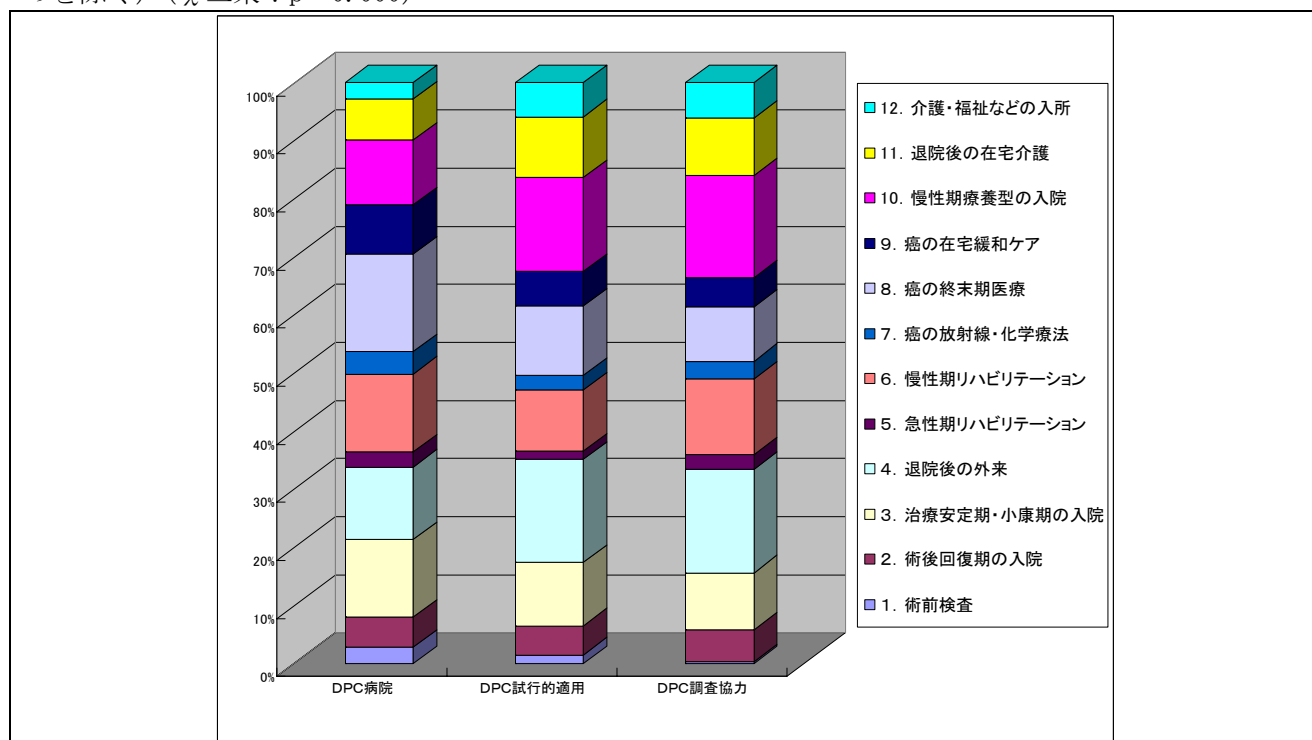
どのような機能を持つ医療機関・施設を増やす必要がありますか。当てはまるもののうち重要と考えるものを3個以内（1、2個でも良い）でお答えください。

- 1. 術前検査を担当する医療機関
- 2. 術後回復期の入院を担当する医療機関
- 3. 治療安定期・小康期の入院を担当する医療機関
- 4. 退院後の外来を担当する医療機関
- 5. 急性期リハビリテーションを担当する医療機関
- 6. 慢性期リハビリテーションを担当する医療機関
- 7. 癌の放射線・化学療法を担当する医療機関
- 8. 癌の終末期医療（緩和ケア）を担当する医療機関
- 9. 癌の在宅緩和ケアを担当する医療機関
- 10. 慢性期療養型の入院を担当する医療機関
- 11. 退院後の在宅介護を支援する医療機関・施設
- 12. 介護・福祉などを担当する入所施設

質問13 (1) 医療連携先の必要度（診療科数）

	1. 増やす	2. どちらでもない	3. 減らす	4. 無回答
DPC病院	316	125	0	9
DPC試行的適用病院	199	99	0	9
DPC調査協力病院	407	158	0	10

質問13 (2) 必要度の高い連携先機能（診療科数、3個まで選択したものの合計の集計、無回答のものを除く）（ $\chi$ 二乗：p=0.000）



質問14 DPCの導入は医療連携と地域医療にどのような影響を与えると考えますか。

- (1) 患者様を紹介する頻度が増す ----- はい いいえ わからない  
(2) 医療機関相互の役割分担を明確にする ----- はい いいえ わからない  
(3) 医療連携クリニカルパスなどが進む ----- はい いいえ わからない  
(4) 地域医療全体の質向上につながる ----- はい いいえ わからない  
(5) 患者様へのわかり易い情報提供につながる - はい いいえ わからない  
(6) 患者様の在宅療養する機会・期間が増す --- はい いいえ わからない

質問14 DPC導入が地域医療に及ぼす影響

	DPC病院			DPC試行的適用			DPC調査協力		
	はい	いいえ	不明	はい	いいえ	不明	はい	いいえ	不明
1. 紹介する頻度が増す	140	117	185	93	92	115	271	77	222
2. 役割分担を明確にする	195	95	152	150	73	77	354	46	169
3. 医療連携クリニカルパス	214	83	145	173	51	76	388	39	142
4. 地域医療の質向上	71	137	234	77	84	138	164	100	304
5. わかり易い情報提供	97	154	191	99	86	114	193	101	275
6. 在宅療養の機会などが増す	129	106	206	100	76	124	224	52	281

以上、一次調査結果集計

#### IV. 「DPC 病院等との連携先医療機関・施設の職員に対する調査」の集計結果

質問 1. お答え頂きます貴医療機関・施設の機能について当てはまるものを1つ選んでください。また病床数など補完すべき情報がある場合には記入してください。この質問に関しては医事課などで一括して記入していただいても結構です。

<input type="checkbox"/> ① 病院 ( ) 床)	<input type="checkbox"/> ④ 介護・療養型医療施設 ( ) 床)
<input type="checkbox"/> ② 有床診療所	<input type="checkbox"/> ⑤ 福祉施設 ( ) 床)
<input type="checkbox"/> ③ 無床診療所	<input type="checkbox"/> ⑥ その他 ( )

回答した職員数について	総数	DPC病院からの報告に基づくもの	DPC試行病院からの報告に基づくもの	DPC協力病院からの報告に基づくもの
① 病院	1736	726	439	571
② 有床診療所	127	51	34	42
③ 無床診療所	78	20	42	16
④ 介護・療養型医療施設	87	18	17	52
⑤ 福祉施設	39	1	10	28
⑥ その他	44	0	13	31

質問 2. お答えいただきます貴職について

職業 (医師、看護師、PT、OT、MSW、ケアマネージャー、ヘルパー、医事課、その他 ( )) 性別 (男・女) 勤務経験年数 ( )
医師または看護師の方は、現在勤務する診療科名をお答え下さい ( )
病院 ( ) との関係 <input type="checkbox"/> ① かつて勤務し、診療にあっていた <input type="checkbox"/> ② 研究者あるいは教育職として所属していた <input type="checkbox"/> ③ 医師会、研究会、会議などでの関係がある、 <input type="checkbox"/> ④ 特に関係ない <input type="checkbox"/> ⑤ その他 ( )

回答した職員の職種について (人数)	総数	DPC病院からの報告に基づくもの	DPC試行病院からの報告に基づくもの	DPC協力病院からの報告に基づくもの
全職種	2136	817	562	757
医師	720	289	154	277
看護師	629	228	180	221

回答した職員と紹介元病院の関係について (人数)	総数	DPC病院からの報告に基づくもの	DPC試行病院からの報告に基づくもの	DPC協力病院からの報告に基づくもの
①かつて勤務し、診療にあっていた	363	223	57	83
②研究者あるいは教育職として所属していた	33	25	5	3
③医師会、研究会、会議などでの関係がある、	358	80	120	158
④特に関係ない	990	392	283	315
⑤その他	359	85	86	188

質問3. 「DPC分類」もしくは「DPC制度」についてご存知ですか

- ① 良く知っている  
 ② 簡単な説明ができる程度には知っている  
 ③ DPCという言葉は聞いた事があるが、詳細は知らない  
 ④ 殆ど、あるいは全く知らない

全職種についての集計

DPCを知っているか	総数	DPC病院からの報告に基づくもの	DPC試行病院からの報告に基づくもの	DPC協力病院からの報告に基づくもの
①良く知っている	221	72	53	96
②簡単な説明ができる程度には知っている	852	331	234	287
③DPCという言葉は聞いた事があるが、詳細は知らない	579	224	163	192
④殆ど、あるいは全く知らない	471	188	109	174

医師についての集計

DPCを知っているか	総数	DPC病院からの報告に基づくもの	DPC試行病院からの報告に基づくもの	DPC協力病院からの報告に基づくもの
①良く知っている	146	46	35	65
②簡単な説明ができる程度には知っている	341	131	73	137
③DPCという言葉は聞いた事があるが、詳細は知らない	150	73	33	44
④殆ど、あるいは全く知らない	80	38	13	29

看護師についての集計

DPCを知っているか	総数	DPC病院からの報告に基づくもの	DPC試行病院からの報告に基づくもの	DPC協力病院からの報告に基づくもの
①良く知っている	22	8	9	5
②簡単な説明ができる程度には知っている	195	65	54	76
③DPCという言葉は聞いた事があるが、詳細は知らない	207	76	59	72
④殆ど、あるいは全く知らない	200	79	56	65

医師 v s 看護師 (総数について) :  $p=0.000$



質問4. ( ) 病院の ( ) 診療科から、この1年の間に紹介された患者様について、記憶に残る方は何人くらいでしょうか。

- ① ほとんど記憶に残る患者様はない  
 ② 数人の患者様について記憶がある  
 ③ 5人前後の患者様について記憶がある  
 ④ 10人前後の患者様について記憶がある  
 ⑤ 大変多くの患者様について記憶がある

なお、患者様を貴病院に紹介したとする上記病院の診療科について、以下の質問では「この病院」と表現しますのでご注意ください。

全職種についての集計

記憶に残る患者	総数	DPC病院からの報告に基づくもの	DPC試行病院からの報告に基づくもの	DPC協力病院からの報告に基づくもの
① ほとんど記憶に残る患者様はない	387	147	110	130
② 数人の患者様について記憶がある	689	261	176	252
③ 5人前後の患者様について記憶がある	346	134	86	126
④ 10人前後の患者様について記憶がある	352	137	94	121
⑤ 大変多くの患者様について記憶がある	326	125	87	114

医師についての集計

記憶に残る患者	総数	DPC病院からの報告に基づくもの	DPC試行病院からの報告に基づくもの	DPC協力病院からの報告に基づくもの
① ほとんど記憶に残る患者様はない	75	34	12	29
② 数人の患者様について記憶がある	200	75	40	85
③ 5人前後の患者様について記憶がある	137	56	30	51
④ 10人前後の患者様について記憶がある	157	69	25	63
⑤ 大変多くの患者様について記憶がある	147	54	46	47

看護師についての集計

記憶に残る患者	総数	DPC病院からの報告に基づくもの	DPC試行病院からの報告に基づくもの	DPC協力病院からの報告に基づくもの
① ほとんど記憶に残る患者様はない	122	35	37	50
② 数人の患者様について記憶がある	222	80	61	81
③ 5人前後の患者様について記憶がある	110	44	30	36
④ 10人前後の患者様について記憶がある	86	30	27	29
⑤ 大変多くの患者様について記憶がある	80	37	20	23

質問5. この病院の当該診療科から、患者様を紹介された主な理由

紹介された理由のうち 主なもの (3個まで選択可)	<input type="checkbox"/> ① この病院からの依頼検査のため <input type="checkbox"/> ② この病院では行わなかった新たな治療を行うため <input type="checkbox"/> ③ 当院が以前行っていた治療を再度行うため <input type="checkbox"/> ④ この病院の治療を継続するため <input type="checkbox"/> ⑤ この病院での手術からの回復のため	<input type="checkbox"/> ⑥ リハビリテーションのため <input type="checkbox"/> ⑦ 癌の終末期緩和ケアのため <input type="checkbox"/> ⑧ 保健福祉型の療養のため <input type="checkbox"/> ⑨ 在宅療養に移行するため <input type="checkbox"/> ⑩ 経過観察のため <input type="checkbox"/> ⑪ 当院が紹介もとであった <input type="checkbox"/> ⑫ その他
この3年間で紹介される患者様の数の変化		
<input type="checkbox"/> ① 増加する傾向にある <input type="checkbox"/> ② 変わらない <input type="checkbox"/> ③ 減少する傾向にある		

全職種についての集計

紹介された理由	総数	D P C 病 院からの 報告に基 づくもの	D P C 試 行病院か らの報告 に基づく もの	D P C 協 力病院か らの報告 に基づく もの
① この病院からの依頼検査のため	246	88	53	105
② この病院では行わなかった新たな治療を行うため	338	88	105	145
③ 当院が以前行っていた治療を再度行うため	190	69	48	73
④ この病院の治療を継続するため	740	374	156	210
⑤ この病院での手術からの回復のため	330	143	78	109
⑥ リハビリテーションのため	789	269	240	280
⑦ 癌の終末期緩和ケアのため	244	136	39	69
⑧ 保健福祉型の療養のため	89	17	30	42
⑨ 在宅療養に移行するため	395	123	127	145
⑩ 経過観察のため	333	176	80	77
⑪ 当院が紹介もとであった	653	272	163	218
⑫ その他	80	25	16	39

$\chi$  二乗 :  $p=0.000$

医師についての集計 (省略)

看護師についての集計 (省略)

全職種についての集計

この3年間で紹介される患者様の数の変化	総数	D P C 病 院からの 報告に基 づくもの	D P C 試 行病院か らの報告 に基づく もの	D P C 協 力病院か らの報告 に基づく もの
① 増加する傾向にある	720	260	198	262
② 変わらない	1056	427	264	365
③ 減少する傾向にある	137	59	36	42

医師についての集計 (省略)

看護師についての集計 (省略)

質問6. この病院の当該診療科からの紹介患者さんの状態についてお尋ねします

1) この病院で入院中に行われた検査・治療について、以前（3、4年前）と比較して <input type="checkbox"/> ① 変わらず、満足できる <input type="checkbox"/> ② 向上し、満足できるようになった <input type="checkbox"/> ③ 変わらず、やや不満（不十分な検査・治療）のまま <input type="checkbox"/> ④ 以前より不十分な検査・治療になった
2) 以前に比べて、この病院における退院の決定は <input type="checkbox"/> ① 早すぎる退院で紹介されてくることが多くなった <input type="checkbox"/> ② この病院での入院期間は充分だ
3) 以前に比べて、この病院から退院後紹介される患者様の重症度が変わりましたか <input type="checkbox"/> ① 重症な患者が増えた <input type="checkbox"/> ② 変化はない <input type="checkbox"/> ③ 軽症の患者が増えた
4) 以前に比べて、患者様から聞く、この病院の処遇や治療についての満足度は変わりましたか <input type="checkbox"/> ① 変わらず、満足できると聞くことが多い <input type="checkbox"/> ② 以前に比べて、満足できると聞くことが多くなった <input type="checkbox"/> ③ 変わらず、不満であると聞くことが多い <input type="checkbox"/> ④ 以前に比べて、不満であると聞くことが多くなった <input type="checkbox"/> ⑤ 特に患者様からの評価を聞いたことはない
5) この病院からの退院患者の紹介を受けることを今後どう考えますか <input type="checkbox"/> ① もっと積極的に紹介してほしい <input type="checkbox"/> ② ケース・バイ・ケースで紹介してほしい <input type="checkbox"/> ③ 紹介してほしくない

全職員からの集計

	総数	D P C 病 院からの 報告に基 づくもの	D P C 試 行病院か らの報告 に基づく もの	D P C 協 力病院か らの報告 に基づく もの
1) この病院で入院中に行われた検査・治療について、 以前（3、4年前）と比較して				
① 変わらず、満足できる	1111	430	299	382
② 向上し、満足できるようになった	414	176	105	133
③ 変わらず、やや不満（不十分な検査・治療）のまま	264	98	64	102
④ 以前より不十分な検査・治療になった	31	9	8	14
2) 以前に比べて、この病院における退院の決定は				
① 早すぎる退院で紹介されてくることが多くなった	476	190	117	169
② この病院での入院期間は充分だ	1297	512	343	442
3) 以前に比べて、この病院から退院後紹介される 患者様の重症度が変わりましたか				
① 重症な患者が増えた	465	157	125	183
② 変化はない	1373	561	357	455
③ 軽症の患者が増えた	40	15	9	16

4) 以前に比べて、患者様から聞く、この病院の処遇や治療についての満足度は変わりましたか				
① 変わらず、満足できると聞くことが多い	675	255	182	238
② 以前に比べて、満足できると聞くことが多くなった	274	120	60	94
③ 変わらず、不満であると聞くことが多い	138	63	26	49
④ 以前に比べて、不満であると聞くことが多くなった	93	22	24	47
⑤ 特に患者様からの評価を聞いたことはない	754	291	215	248
p = 0.003				
5) この病院からの退院患者の紹介を受けることを今後どう考えますか				
① もっと積極的に紹介してほしい	618	237	173	208
② ケース・バイ・ケースで紹介してほしい	1343	527	339	477
③ 紹介してほしくない	23	7	7	9

#### 医師からの集計

	総数	D P C 病院からの報告に基づくもの	D P C 試行病院からの報告に基づくもの	D P C 協力病院からの報告に基づくもの
1) この病院で入院中に行われた検査・治療について、以前（3、4年前）と比較して				
① 変わらず、満足できる	431	170	90	171
② 向上し、満足できるようになった	146	74	31	41
③ 変わらず、やや不満（不十分な検査・治療）のまま	83	28	18	37
④ 以前より不十分な検査・治療になった	17	6	5	6
2) 以前に比べて、この病院における退院の決定は				
① 早すぎる退院で紹介されてくることが多くなった	80	50	23	37
② この病院での入院期間は充分だ	535	220	112	203
3) 以前に比べて、この病院から退院後紹介される患者様の重症度が変わりましたか				
① 重症な患者が増えた	129	42	26	61
② 変化はない	538	230	115	193
③ 軽症の患者が増えた	13	6	3	4
4) 以前に比べて、患者様から聞く、この病院の処遇や治療についての満足度は変わりましたか				
① 変わらず、満足できると聞くことが多い	308	120	69	119
② 以前に比べて、満足できると聞くことが多くなった	95	43	15	37
③ 変わらず、不満であると聞くことが多い	34	12	6	16
④ 以前に比べて、不満であると聞くことが多くなった	26	8	6	12
⑤ 特に患者様からの評価を聞いたことはない	221	95	48	78

5) この病院からの退院患者の紹介を受けることを今後どう考えますか				
① もっと積極的に紹介してほしい	239	98	46	95
② ケース・バイ・ケースで紹介してほしい	444	185	99	160
③ 紹介してほしくない	12	1	5	6

看護師からの集計

	総数	D P C 病院からの報告に基づくもの	D P C 試行病院からの報告に基づくもの	D P C 協力病院からの報告に基づくもの
1) この病院で入院中に行われた検査・治療について、以前（3、4年前）と比較して				
① 変わらず、満足できる	289	114	84	91
② 向上し、満足できるようになった	143	56	36	51
③ 変わらず、やや不満（不十分な検査・治療）のまま	92	30	29	33
④ 以前より不十分な検査・治療になった	7	2	2	3
2) 以前に比べて、この病院における退院の決定は				
① 早すぎる退院で紹介されてくることが多くなった	195	74	49	72
② この病院での入院期間は充分だ	321	123	94	104
3) 以前に比べて、この病院から退院後紹介される患者様の重症度が変わりましたか				
① 重症な患者が増えた	178	64	52	62
② 変化はない	361	140	99	122
③ 軽症の患者が増えた	14	5	5	4
4) 以前に比べて、患者様から聞く、この病院の処遇や治療についての満足度は変わりましたか				
① 変わらず、満足できると聞くことが多い	156	64	45	47
② 以前に比べて、満足できると聞くことが多くなった	88	34	24	30
③ 変わらず、不満であると聞くことが多い	52	19	15	18
④ 以前に比べて、不満であると聞くことが多くなった	35	5	10	20
⑤ 特に患者様からの評価を聞いたことはない	243	92	67	84
5) この病院からの退院患者の紹介を受けることを今後どう考えますか				
① もっと積極的に紹介してほしい	120	44	48	28
② ケース・バイ・ケースで紹介してほしい	454	168	111	175
③ 紹介してほしくない	8	5	1	2

p = 0.002

質問7. この病院の当該診療科に患者様を紹介する、あるいは受診を進めることを今後どうしますか

①積極的に紹介する     ②ケース・バイ・ケースで紹介する     ③紹介したくない

全職種についての集計

	総数	D P C 病院からの報告に基づくもの	D P C 試行病院からの報告に基づくもの	D P C 協力病院からの報告に基づくもの
①積極的に紹介する	736	289	181	266
②ケース・バイ・ケースで紹介する	1276	491	340	445
③紹介したくない	17	3	5	9

医師についての集計（省略）

看護師についての集計（省略）

以上、二次調査集計結果

## V. まとめ

### 1) 一次調査：「DPC病院、DPC試行的適用病院、DPC調査協力病院に対する調査」

#### (1) 調査病院と診療科（質問1）

調査対象の候補病院としてあげた病院は、DPC病院、DPC試行的適用病院、DPC調査協力病院の各群とも約25であったが、DPC調査協力病院から調査に協力するとの多くの申し出があり、DPC病院24、DPC試行的適用病院27、DPC調査協力病院47と調査協力病院の数が大きく上回った。期限内に一次調査票の回収を終了した病院は、それぞれ21、25、45と何れの群も回収率が良く、また群間に回収率の差異は無かった。また、回答のあった診療科数はそれぞれ450、284、479であった。

回収率および回答のあった診療科数から、一次調査は二次調査を行う基礎情報として十分意味のあるものであると考える。

なお、各病院群の診療科をみると、何れの群でも外科系が多く、一部は内科系と外科系の混成であった。DPC試行的適用病院およびDPC調査協力病院の診療科数が共に平均11であったのに比して、DPC病院の平均の診療科数は21であったが、これはDPC病院が主に大学病院であり、教育病院としての機能を兼ね備えることの当然の結果である。

## (2) 入院する患者の傾向（質問2、3、4、5）

診療科名のみでは把握しきれない入院患者の病態を、MDC分類、複雑な病態、癌、リハビリテーションの4つの視点で質問した。

質問2では、各診療科であつかう患者数をMDC分類毎の印象として5段階の比率で示してもらった。その結果、何れのMDCにおいても、DPC病院、DPC試行的適用病院、DPC調査協力病院の間に、扱う診療科数の分布に差はなかった。すなわち、何れの群においても、01（神経系疾患）、04（呼吸器疾患）、05（循環器系疾患）、06（消化器系、肝臓・胆道・膵臓疾患）、10（内分泌・栄養・代謝に関する疾患）の5つのMDCを扱う診療科が多く、09（乳房の疾患）を扱う診療科は少なかった。

しかし、質問3（1）で定義したような「複雑な病態の患者」の入院については、DPC病院では193の診療科（43%）が「常時、数例以上入院している」と答え、DPC試行的適用病院（診療科の26%）、DPC調査協力病院（診療科の20%）に比較して際立った違いがあった。また、DPC病院では「複雑な病態の患者」の入院が著しく増加、あるいは増加していると答える診療科が他の群の病院より多かったことは、今後この傾向が強くなることを予測させる。

質問4（1）の集計結果で示したように、DPC病院では癌・悪性腫瘍についての入院が「全て、もしくは殆ど全て」あるいは「大多数の患者様が該当する」とする診療科が、他の2つの病院群に比して著しく多かった。この傾向もまた、質問4（2）の結果から将来いっそう顕著となることが予想される。

一方、リハビリテーションを必要とする患者の入院については、質問5（1）の集計結果がしめすように、3つの病院群に大きな差は無い。増加の傾向も同様である。しかし、質問5（2）の後半についての集計結果から、リハビリテーションを必要とする患者様の治療方針は、DPC病院では「早期のみとし、後は他院に紹介する」とする傾向が強いが、DPC試行的適用病院およびDPC調査協力病院では「自院で十分に行う」とする診療科が比較的多いという結果であった。

これら、扱う患者の病態に関する違いは、相互の役割分担と医療連携のありように大きな影響を及ぼしているものと考えられる。

## (3) 平均在院日数、入院待ちに関する傾向（質問6、7）

質問6で得た各病院の診療科毎の平均在院日数の平均は、概ね病院単位での平均在院日数に合致し、DPC病院がDPC試行的適用病院およびDPC調査協力病院より5日程度長いという結果になった。病床稼働数は病院毎のばらつきが多く診療科の病床単位には各病院群に大きな差はなかった。

質問7は各診療科の入院待ちの状況を調査したものだが、DPC病院では「常時10人前後の入院待ち」あるいはそれ以上の診療科が他の2つの病院群より際立って多かった。同様に、入院待ち

日数についてもDPC病院では「常時10日前後の入院待ち」あるいはそれ以上の入院待ち期間が生ずる診療科が際立って多かった。しかも、この入院待ち日数はDPC病院において長くなる傾向にあると答えた診療科が多かった。

既に示したように、DPC病院は「複雑な病態」、「癌・悪性腫瘍」を扱う診療科が多いという特徴があり、そのことは平均在院日数の延長につながり、入院待ち人数・待ち日数の増加に及んでいるものと推測できる。

#### (4) 紹介・逆紹介に関する傾向（質問8、9、11、12）

さて、「複雑な病態」、「癌・悪性腫瘍」、「リハビリテーション」などへの取り組みが各病院群で異なり、相互に役割の分化が進んでいるとすると、紹介・逆紹介にもその影響は及ぶものと考えられる。

質問8では、「他医療機関から紹介されて入院する」患者の割合が「全て、もしくは殆ど全て」あるいは「大多数」とする診療科がDPC病院で多いことが示された。しかし、これら紹介患者の受入数の増加傾向については各病院群に差は無かった。一方、質問9の集計結果にあるように、他医療機関への紹介は概ね何れの病院群においても差異が無く、増加の傾向にも差は無かった。

質問11では、あらためて紹介・逆紹介のバランスを質問した。DPC病院では、DPC試行的適用病院およびDPC調査協力病院に比較して、「他医療機関からの紹介が多い・著しく多い」とする診療科が多く、「他医療機関への紹介が多い・著しく多い」とする診療科は少なかった。また、質問12の集計結果からは何れの病院群も他医療機関への紹介数が増えたとする診療科の比率は同等であった。

「複雑な病態」、「癌・悪性腫瘍」、「リハビリテーション」などについての個々の要因が、これら紹介・逆紹介の多寡とどのような関係があるかは、さらに詳細な分析を必要とする。

#### (5) 他医療機関・施設への紹介の実態とニーズ（質問10、13、14）

紹介先医療機関・施設の種類では、何れの病院群の診療科も病院に紹介することが極めて多いが、DPC試行的適用病院およびDPC調査協力病院では診療所や介護福祉施設へ紹介する診療科が多いという特徴を得た。

紹介の理由を見ると、DPC病院のほうが「癌の終末期緩和ケアのため」、「リハビリテーションのため」とする診療科が多く「介護・福祉型の療養のため」、「在宅療養に移行するため」とする診療科は少なかった。一方DPC試行的適用病院およびDPC調査協力病院には「提供困難な検査を行うため」、「提供困難な治療を行うため」とする診療科が多かった。



質問13ではDPC病院等が求める、紹介先医療機関・施設の機能についてのニーズを聞いている。ここでも、DPC病院の診療科が「癌の終末期医療」「癌の在宅緩和ケア」や「リハビリテーション」を行う施設をより多く求めていることがわかる。一方、DPC試行的適用病院およびDPC調査協力病院の診療科にとっては、「退院後の在宅介護」「介護・福祉などの入所」にニーズが強い。

さて、DPCによる包括医療制度が地域医療に与えるか影響については、何れの病院群も同じ傾向であり、「医療連携クリニカルパス」に注目が集まっている。また、DPC調査協力病院において全般的に期待が大きいという集計結果であった。

## (6) 一次調査のまとめ

一次調査はDPC病院などの診療科にたいし、強く連携する医療機関・施設名を報告していただき、その医療機関・施設の職員への二次調査でDPC病院等の紹介患者の医療内容に関する評価を行おうとするものである。しかし、単に医療連携先の職員への調査を行い評価を得るとしても、紹介元となるDPC病院等の扱う患者の病態や医療連携の目的などが明らかにならないとすれば、二次調査の集計結果にたいする解釈は十分なものにならないと考える。

この意味で、DPC病院、DPC試行的適用病院およびDPC調査協力病院の診療科が扱う患者の疾患内容、また医療連携についての実情やニーズが「複雑な病態」「癌・悪性腫瘍」「リハビリテーション」などの視点において異なることが示されたこと、また、入院待ちの患者様がDPC病院に多いことが示されたことは意味あることであった。

## 2) 二次調査：「DPC病院等との連携先医療機関・施設の職員に対する調査」

### (1) 回答した職員について（質問1、2）

回答した職員数は2136人であり、医師720人、看護師629人、それ以外が787人であり、病院の勤務者が大多数であった。DPC病院の一次調査に基づく回答者では、「かつて勤務し、診療に当たっていた」という関係がある職員が多かったことは、この二次調査の集計結果の解釈について考慮すべき点かもしれない。

### (2) DPC制度についての周知度（質問3）

DPCを良く知っている、あるいは簡単な説明ができる程度に知っているとする職員は全体の約半数であり、医師のほうが看護師より良く知っているという結果であった。

### (3) 患者を紹介された理由、および患者に対する記憶（質問4、5）

質問5の集計結果をみると、「治療の継続」、「リハビリテーション」「当院が紹介元」と理解す

る職員が多かった。一次調査では、DPC病院が他の病院群より癌患者を多く扱い、紹介していることが明らかになったが、このことは紹介を受けた医療機関・施設の職員も認識しており、「癌の終末期緩和ケアのため」と理由を認識する職員は、DPC病院からの報告に基づく二次調査票を記入した職員が多かった。

なお、調査票を記入した職員は、概ね紹介された患者に対する何らかの印象を記憶しているとの結果であるが、約18%の職員が「ほとんど記憶に残る患者様はない」と答えている。このことがこの調査全体に及ぼした影響は改めて検討する。

#### (4) 連携先医療機関・施設の職員からの評価（質問6、7）

紹介もとのDPC病院等で行われた検査・治療については、全職員の回答によると、「満足できる」と「向上して満足できるようになった」の計は「変わらず、やや不満」の「以前より不十分な検査・治療になった」計より上回ったものの、概ね全体の84%であった。この割合は、DPC病院、DPC試行的適用病院およびDPC調査協力病院の一次調査に基づくものとして分類しても、それぞれ85%、85%、82%であり、相互に差異は無かった。

また、速すぎる退院、重症な患者の増加、患者様から聞く満足度のいずれにおいても、DPC病院、DPC試行的適用病院およびDPC調査協力病院の一次調査に基づいて分類し集計した二次調査の職員の回答には差が無かった。

これらの評価と関連のあることとして、紹介を受け入れることについても、あるいは紹介をすることについても、何れの病院群にたいしても同等に積極的であるとの回答であった。

#### (5) 二次調査のまとめ

DPC病院およびDPC試行的適用病院は既に包括評価制度を導入しており、DPC調査協力病院と比較することでDPCに基づく包括評価制度が地域医療に混乱を生じているかを検討したが、この結果から、そのような傾向は無いと推測する。

医療連携は、それぞれの医療機関の特徴、入院する患者の病態、医療機関の方針などに深くかわりながらなされていくものであり、医療制度の変容と密接な関係がある。医療機関の機能分化、役割分担の明確化は現代の医療の特徴であることから、地域として医療の質を評価する何らかの指標作り、評価を継続的に行っていく仕組みも必要である。今回の調査がその一助となることを期待する。